

音楽研究部会(中)

I 研究テーマ 「私の音楽 みんなで音楽」

～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

II 研究テーマ設定の理由

今年度中学部会では、昨年開催された関東音楽研究会での実践の流れを受け、同じテーマで継続研究を行ってきた。関東音楽研究会の研究の柱の一つに、小学校と中学校の連携があった。数年前より、小中合同で研究会を行い、双方の実践を見合いながら意見交換をするようになってきている。今年度も小中の系統性を意識した表現領域の中の「歌唱」分野に焦点を当て、支部としての研究を進めてきた。

学習の過程において、生徒たちが音楽から感受したことを基に曲のイメージをもち、歌唱表現に生かせるような授業を目指して研究を行った。また、生徒一人ひとりが感じたことや考えたことを伝え合う活動や、自らの思いや意図を仲間と共有し合う学習活動を積み重ねて、一人一人の音楽の力を高めていけるような授業の工夫や改善を重ねていくこととした。それによって、音楽活動を楽しく感じ、子どもたちの音楽の世界が広がり、さらによりよいものを追求したくなる生徒の育成を目指し、本テーマを設定した。

III 経過と内容

(1) 研究内容

学習指導要領に基づいて、〔共通事項〕の取り扱いや歌唱の指導法について、双方の実践を見合ったり、講師を招聘して学習会を行ったりした。

- 4月 研究組織・年間計画について
- 5月 研究テーマ・研究計画の検討・承認
- 6月 中学校ブロック；和楽器講習会 講師；神宮寺淑子先生「三味線の基本奏法」
- 7月 指導案検討
- 8月 指導案検討
- 9月 研究授業及び研究会「表現を工夫しながら伸びやかな声で歌い合わせよう」(大国小5年)
- 10月 研究授業及び研究会「歌詞の内容を基にして歌唱表現を工夫しよう」(城南中1年)
- 11月 研究授業及び研究会「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」(北新小4年)
「ようすをおんがくで」(国母小1年)
- 1月 反省・来年度に向けて、県教研環流報告

(2) 研究授業指導案(城南中学校の実践)

第1 学年音楽科学習指導案

1. 題材名 歌詞の内容を基にして歌唱表現を工夫しよう。
2. 題材の目標 ・歌詞の表す情景や気持ちを想像し、工夫して「ふるさと」を表現する。
3. 学習指導要領の内容との関連
 - (1) 指導事項 A表現 ア歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。
B鑑賞 ア音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
 - (2) 本題材で指導する〔共通事項〕の主な内容 旋律・強弱・速度
4. 題材設定の理由
 - (1) 題材の構成

本教材「ふるさと」は、文部省唱歌の中で最も愛唱されている曲の一つであり、1914年「尋常小学唱歌(六)」に掲載されて以来、長く歌い継がれてきた。心にしみる旋律の美しさや、どこか懐かしい日本的な歌詞の情感がこの曲の大きな魅力となっている。

本教材「ふるさと」、聴取教材「大きな古時計」、鑑賞曲「赤とんぼ」は、学習指導要領のA表現の内容における、(1)ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」及びB鑑賞の内容における、(1)ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」に関する学習内容である。

人々の生活や心情と深いかかわりをもちながら、世代を超えて受け継がれてきた日本の歌には、季節や自然などを美しい現象として愛おしんできた日本人の感性が息づいている。心も体も成長する中学生のこの時期に、日本の歌の背景や心情に心を馳せながら学習することは、日本の歌を歌い継いでいこうとする心情を養い、「豊かな情操を養う」という音楽科のねらいに結び付くものであると考える。さらに歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫していくことにより、曲の味わい方が徐々に深まり表現の質も高まっていくと考える。

5. 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (第1時・歌唱)	①詩の表す情景による表現の違いを感じ取っている。 (第2時・歌唱) ②音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした表現の工夫をしている。(第3時・歌唱)	①歌詞の内容や曲想を生かした表現で歌っている。 (第4時・歌唱)	① 歌詞や旋律の美しさや音楽を形づくっている要素を関連させながら、「赤とんぼ」のよさを味わって聴いている。 (第4時・鑑賞)

6. 本時の展開

(1) 日時 平成25年10月1日(火) 2:30~3:20

(2) 場所 城南中学校 第一音楽室

(3) 本時のねらい(4時間扱いの3時間目)

歌詞の表す情景や曲に込められた思いを感じ取って歌い方を工夫する。

(4) 学習の展開

時	学習内容	・学習活動	教師の働きかけ・準備など ◇評価
第3時	◎前時の復習と本時の目標を確認する。	・前時の学習を振り返る。	○歌詞と曲想が一体となっていることを確認する。
	◎「ふるさと」を音程に気を付けながら歌う。	・教師のピアノに合わせて歌う。	○教師のピアノに合わせて全員で歌う。 ・1番は前時の学習を生かして歌わせる。
	◎3番の歌い方についてグループで検討して練習する。	・リーダーを中心に個人で考えた工夫する点を発表し、みんなで試しなが	○4~5人グループで話し合う。 ○自分の考えた工夫はなぜなのかを、音楽を形作っている要素と関連させながら言葉で伝えるようにする。

	<p>◎グループで練習した様子をいくつかを発表する。</p>	<p>ら歌い、よいところを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で歌って検討する。 ・グループの意見をまとめる。 ・様々な工夫があることを聴き取り、考えを共有したり深めたりする。 	<p>○それぞれの発表を全員で歌って検討し、グループの意見をまとめていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした表現の工夫をしている。(音楽表現の創意工夫②)</p> </div> <p>○工夫している点を取り上げ、音楽を形づくっている要素と関連させながら、よい点を伝えるようにする。</p> <p>○様々な表現の工夫に触れ、それぞれのよさや違いなどを感じ取り、言葉で表せるようにする。</p> <p>○それぞれのグループの意見を全員で歌って確かめるなどして、音楽を通して共有できるようにする。</p>
--	--------------------------------	--	--

○研究協議

「歌詞の内容から表現の工夫に結びつける活動について」

- ・小学校でもたくさん要素について学習をしているが、今回の授業は中学校では難しいのか。
→音楽記号の意味だけなら、たくさん知っているが、実際にそれを使って表現しようとするとなかなか難しい。
- ・自分で筋道をたてて、自分だけで最後までできたという経験が必要。「どうしたいの?」と聞いてあげるとだんだん言えるようになる。
- ・活動をしていくうちに、歌詞の内容ではなく、考えた強弱や速度に気がいってしまい、fで歌えているかどうかの練習になっているグループがあった。
- ・子どもなりに歌詞を音楽表現にどのように結びつけていくか試行錯誤していた。
- ・変声期の男子も一生懸命歌っていた。
- ・雰囲気イメージすることは出来たが、それを表現することが難しそうだった。
- ・早い段階でグループの発表を行って、お互いに取り入れて練習する時間を増やしても良かった。
- ・グループでの活動が長かったので、集中が続かない生徒がいた。
- ・子どもたちがよく頑張っている様子が見て取れた。「何を何のためにやろうとしていたのか」がリーダーの生徒に伝わっているとよかった。子どもの必要感。「ふるさと」の曲想を子どもたちが把握していたかどうか。

○指導・助言 南湖小教頭 大久保久美先生より

- ・指導案は良く練ってあるが、実際の授業が大切である。「速度・強弱」にしぼるのであれば、それをきちんと提示する必要がある。
- ・グループの中では変声期もあり、うまく歌えないところがあった。そんな現状も小学校の先生方に見てほしい。

IV 研究の反省と課題

今年度も小中連携を研究の軸において進めてきた。中学校1回、小学校低・中・高学年ブロックで各1回研究授業を行うことができ、互いの授業を見合うことができた。小学生の音楽を楽しんでいるようす、先生方のきめ細やかな指導を参観することができ、中学校の実践に生かせる場所があった。反面、小学校で学習したことが中学校につながっていないところもあり、普段のようすなどの情報交換をしていく機会をもちながら、それに関する研究も深めていく必要がある。また、教師の指導力を高めるために、日本音楽の指導に生かせる三味線の指導法講習会を行った。このような講習を継続し、授業で実践していきたい。今年度の成果と課題を踏まえて、次年度の研究の方向性を十分に検討し、さらに音楽科としての研究を深めていきたい。